＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
GIDE & TADESKA 合同企画:「『スペイン語学習のめやす』について共に考える」
Coprograma GIDE y TADESKA: Pensamos juntos sobre el “Modelo de Contenidos”
[第 9 回　関西スペイン語教師の集い（第 115 回関西スペイン語教授法ワークショップ）]
[IX Encuentro de Profesores de Español en Kansai]
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
日時:2018 年 3 月 1 日（木） 11:00 - 17:00
場所:関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1408 教室
* Fecha y hora: jueves, 1 de marzo de 2018, de 11:00 a 17:00
* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1408
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

本資料の内容：
１．企画第 2 部（グループディスカッション）のまとめ：Segunda Parte “Discusión en grupo”
２．本企画についての参加者からのコメント

Segunda Parte “Discusión en grupo”

・この資料は、３月１日（木）関西学院大学梅田キャンパスにて行われた合同企画（ヘッダに表示）の第２部で行われたグループディスカッションのまとめです。
・資料前半はテーマ（話題）別、後半はグループ別に、要旨を配置しました。内容は同じです。
・青い文字は、各グループの内容を全体で報告しあい話し合った際に、司会者が重要な箇所をマークしたものです。
・斜体については、本資料を編集する際に編集者（小川）が書き足したものです。

（2018.3.14 更新　小川雅美）

テーマの決め方：
　次の４つのルートで出された問題(dificultades)や問題提起(cuestiones)を、第１部の最後にいくつかにまとめた。

N...第 1 部西村さんらの教案紹介の最後に提示された困難点
T...TADESKA2 月 13 日のブレーンストーミングから抽出された問題提起
K...Kawaguchi (2017) での問題提起
G...GIDE から出されたテーマ

N1, N2, N3 →Dificultades en la práctica (Tema 1)
K3 →Objetivos de clases de segunda lengua extranjera (Tema 2)（ホワイトボード上では”L2”と書かれていたが、実際には大学の「第 2 外国語科目」を指しているので書き換えた）
T1, K3, G3, G4 →Motivación del estudiante (Tema 3)
K1, K2, K4, T3, G1 → Metodología: gramática y contenidos socioculturales (Tema 4)
T2, G2 → Aprendiente autónomo /¿Qué quiere decir aprender una lengua? (Tema 5)

Resúmenes clasificados por tema

Tema 1 『めやす』教案実施に伴う困難な点（Dificultades en la práctica）
（このテーマを取り上げたグループはなし）

Tema 2 第 2 外国語科目の目的（Objetivos de clases de segunda lengua extranjera）

Grupo A

第 2 外国語教育の目的
（例）
人間力 → 異文化能力 → コミュニケーション能力

ただ、明確な目的を持っているかどうかは、個々の教師による。

学生がどれだけ目的を持っているかはわからない。
↓
なので、モチベーションを与える必要がある。
↓
そして、知的欲求を刺激しつつ、モチベーションを上げて、維持させる。
また、異なるモチベーションも発見してもらう。

Grupo B

大学での語学教育の存在意義は？
大学で教えるというのは、語学学校で教えるのとは違いがあるべき。必要。
何を教えるべきか。
コミュニケーション活動だけでなく、文法、どのように言語が機能するのかなどを教える必要もある。
会話だけだと評価もしにくい。そのためにポートフォリオなどのツールもあるが、なかなか正確な評価は難しい。

面白いと感じる会話の授業と、難しくてしんどいという文法の授業の差。
満足度、必要性をあまりに意識しすぎると、本質的なところを見失いかねない。

Grupo D

【第二外国語の学生向けクラスの学習目的】
１．英語とスペイン語を並行して学習
２．伝わる、使える第一優先（相手に伝われば良い（例えば主語や動詞の列挙のみ、文法事項を排除））
３．異文化理解、文化的寛容、視野の拡大、自文化の相対化

Grupo E

Objetivos de la clase

No solo enseñar la lengua.

Es difícil evaluar la competencia intercultural, la adquisición de estrategias de aprendizaje, etc.

Grupo F

★第二外国語教育としてのスペイン語教育の目的

①大学が目指すもの

それぞれの大学による

②めやすが目指すもの

P86（２．３.）「授業で学んだ方法論によって一生の間学び続ける学習者を育てること」

この方法論は学習者にとって、ひとつのきっかけであったほうがいい。一生学び続ける主体性は学習者に委ねるべきではないか。

③教師個人が目指すもの

・文法は単独で教えられるものではなく、コンテクストや文脈とともに教えられるべきである。その点においては「めやす」の理念に賛成である。

・②の方法論が多様性を学ぶことも含まれている。それなのに①の大学が目指すものは教師の教え方に多様性を認めないというズレが生じているのではないか。

やり方、たとえば導入の方法で自分なりの工夫ができるのでは？

教師のモチベーション、教師の言語観、自分の信念等を大切にするべきだろう。

大学がめざすもの、どこまで具体的かは、学校による。教師の多様性、

その姿勢について学生へ伝える？　－

Tema 3 学生のモチベーション（Motivación del estudiante）

Grupo B

第２外国語として学習する学生のモチベーション

1. 音楽などに興味のある学生、スペイン語を話す友人がいる学生、留学したいと考える学生
2. 選択科目としてくる学生と必修でくる学生はわけて考える必要がある。

簡単そうなものを選んだ学生。サッカーへの興味から少しスペイン語が簡単だという情報を得てくる。

3. スペイン語が話者人口が多いので有益そうだという情報をなんとなく持ってくる。
4. なぜスペイン語を学びたいかは知らず、空きコマだったからくる学生。

選択科目で、ある程度興味のある学生に対しては、そのモチベーションをどうやって維持するかを考えるべき。

必修科目で、なんとなくくる学生に対しては、ゼロからモチベーションを持たせることを考えないといけない。なぜスペイン語を学ぶのかもわかっていない学生もいる。

どうすればいいのか？

会話とか、コミュニケーションができたら、達成感もある。
例）文化と関係した語彙を文脈の中で教えることで、モチベーションが高まる。

文法がモチベーションを下げるというのは、教え方の問題。
教師が情報を与え、学生がそれを覚えるというような単調なやり方。
単純に反復練習などだけではやる気がなくなる。

「わかった」という実感があれば、学生のモチベーションを高めることができる。

伝統的に、スペイン語の授業は「文法」と「会話」に分けて教える。
この２つをどう接続するのかが問題。同じ教科書を使うならまだしも、
別教材ならかなり異なる授業になってしまう。
２つをつなげるオーガナイズを完璧にする時間はない。

また、TADESKAや今日のGIDEのような授業教案は準備にかなり時間がかかって、
毎日の授業で実践するには現実的ではない面も。
理想と現実を埋める必要がある。

文法自体が問題というわけでもない。

Sensación de logro
例）語彙をバラバラに教えるのでなく、表現として教え、すぐに会話で使えるようにするなどすると、「わかった」、「使える」という実感を持たせることができる。

どうやって教えるかを考えるのが重要。
一人の教員が全てを担当する場合は、うまく調整できるからやりやすい。

語彙の分量の制限
読んでわかる程度で良い（推測したりして意味が理解できれば良い）語彙と使えるようになる語彙の２種類を意識して分ける必要がある。（教え方の強弱）
英語から類推する学生もいれば（モチベーションはまずまず上がる）、それができない学生（そうしたモチベーションが高まらない）もいる。

グループ分けの際にも学生のレベルを考える必要がある。

学習者のモチベーションを重視すると、会話に偏重しがち。

大学で学ぶこと＋成績評価の対象とするためにも、仕組みや文法を教える、理解させることも重要。

グループ内でのレベルの差もモチベーションを下げる要因になる。→グループに色々なレベルの学生を入れる。

「評価」と「やりたいことをさせる」こととの間の差異。
話させる、間違えがあっても話させるというのと、成績をつけるための課題やテストとの間のバランス。

Grupo E
¿Es importante la motivación?
Debemos considerar los intereses de los estudiantes pero no podemos basarnos solamente en eso. Tenemos que encontrar un punto de encuentro entre los intereses de los estudiantes y el objetivo de la asignatura.

¿Hasta qué punto tenemos que tratar de motivar a los estudiantes?
No desmotivar es más importante que motivar.

¿Cómo motivar a los estudiantes?
El factor más importante es el factor humano: la propia motivación del profesor.

Tema 4 *教授法：文法と社会文化項目との関係性（Metodología: gramática y contenidos socioculturales）*
Grupo A
教授法：文法、社会文化項目
『めやす』とより絡めて議論

スペイン語専攻
文法・講読・会話→いろいろな先生から学ぶ
第２外国語
文法・講読・会話→一人の教師が担当することが多い

教えやすさ・学びやすさと、習得の可能性は必ずしも一致しない。

補うものとして、螺旋階段的な学習プロセスが有効になるのではないか。

（議論通して出てきたのが『教師自身の言語観』が関わっていることが多いのではないかということ。）

Grupo C

4. Metodología, Gramática, contenidos socioculturales

「文法を体系的に学ぶこと」vs「めやす的学び方」

・社会文化項目から始めると、体系的な文法知識の獲得が妨げられる

・アクティビティを考える際に文法から考え始めると、社会文化項目が導入しづらい。

・めやす：文化項目→機能→文法　　→文法まとめ・練習

・コンテキストから始める必要性

・日本人は文法→コンテキストの順番を好む傾向があるが、ここまでそれでうまくいかなかった。何か変える必要性。

・自律した学習者になるためには文法を体系的に（全体を）学ぶ必要性がある。

・自律した学習者（要定義付け）であれば、自ら自分に足りないことを補完できる。

・現在の小中学校での外国語教育の在り方

・文法を知っていることで話す恐怖心に勝てる vs.　話すことから始めれば話すことへの恐怖心はない

・専攻と第二外国語は分けて考える　　めやすは第二外国語向きに作成

・文法で始める場合：すべての用法を教える

社会文化・機能で始める場合：使う用法だけ説明・練習

・自律した学習者とは：「学んだことで何ができるか」「あることをするために何をすべきか」を知っている人　＝モチベーションを持った学び手

Grupo D

【メソドロジーについて】

1．　文法は従来どおり体系的

2．　順序どおりにインプット

3．　網羅的に学習させる必要はなし、スパイラル（従来の教科書と併用？）

Tema 5　*「自律した学習者」「言語を学ぶとはどういうことか？」Aprendiente autónomo / ¿Qué quiere decir aprender una lengua?*

（直接テーマとしたグループはないが、他のテーマの中で話題となっている場合がある。）

Resúmenes clasificados por grupo

【grupo A】

Tema2

第２外国語教育の目的

（例）

人間力 → 異文化能力 → コミュニケーション能力

ただ、明確な目的を持っているかどうかは、個々の教師による。

学生がどれだけ目的を持っているかはわからない。

↓

なので、モチベーションを与える必要がある。

↓

そして、知的欲求を刺激しつつ、モチベーションを上げて、維持させる。

また、異なるモチベーションも発見してもらう。

Tema 3 *自律した学習者とは？でしたっけ…*

（Grupo C が Tema 4 と絡めて話し合っているので Tema 4 を参照）

Tema 4

教授法：文法、社会文化項目

『めやす』とより絡めて議論

スペイン語専攻

文法・講読・会話→いろいろな先生から学ぶ

第２外国語

文法・講読・会話→一人の教師が担当することが多い

教えやすさ・学びやすさと、習得の可能性は必ずしも一致しない。

補うものとして、螺旋階段的な学習プロセスが有効になるのではないか。

（議論通して出てきたのが『教師自身の言語観』が関わっていることが多いのではないかということ。）

【grupo B】

第2外国語として学習する学生のモチベーション

1. 音楽などに興味のある学生、スペイン語を話す友人がいる学生、留学したいと考える学生

2. 選択科目としてくる学生と必修でくる学生はわけて考える必要がある。
簡単そうなものを選んだ学生。サッカーへの興味から少しスペイン語が簡単だという情報を得てくる。
3. スペイン語が話者人口が多いので有益そうだという情報をなんとなく持ってくる。
4. なぜスペイン語を学びたいかは知らず、空きコマだったからくる学生。

選択科目で、ある程度興味のある学生に対しては、そのモチベーションをどうやって維持するかを考えるべき。

必修科目で、なんとなくくる学生に対しては、ゼロからモチベーションを持たせることを考えないといけない。なぜスペイン語を学ぶのかもわかっていない学生もいる。
どうすればいいのか？

会話とか、コミュニケーションができたら、達成感もある。
例）文化と関係した語彙を文脈の中で教えることで、モチベーションが高まる。

文法がモチベーションを下げるというのは、教え方の問題。
教師が情報を与え、学生がそれを覚えるというような単調なやり方。
単純に反復練習などだけではやる気がなくなる。

「わかった」という実感があれば、学生のモチベーションを高めることができる。

伝統的に、スペイン語の授業は「文法」と「会話」に分けて教える。
この2つをどう接続するのかが問題。同じ教科書を使うならまだしも、
別教材ならかなり異なる授業になってしまう。
2つをつなげるオーガナイズを完璧にする時間はない。

また、TADESKAや今日のGIDEのような授業教案は準備にかなり時間がかかって、
毎日の授業で実践するには現実的ではない面も。
理想と現実を埋める必要がある。

文法自体が問題というわけでもない。

Sensación de logro
例）語彙をバラバラに教えるのでなく、表現として教え、すぐに会話で使えるようにするなどすると、「わかった」、「使える」という実感を持たせることができる。

どうやって教えるかを考えるのが重要。
一人の教員が全てを担当する場合は、うまく調整できるからやりやすい。

語彙の分量の制限
読んでわかる程度で良い（推測したりして意味が理解できれば良い）語彙と使えるようになる語彙の2種類を意識して分ける必要がある。（教え方の強弱）
英語から類推する学生もいれば（モチベーションはまずまず上がる）、それができない学生（そうしたモチベーションが高まらない）もいる。

グループ分けの際にも学生のレベルを考える必要がある。

学習者のモチベーションを重視すると、会話に偏重しがち。
大学で学ぶこと＋成績評価の対象とするためにも、仕組みや文法を教える、理解させることも重要。

グループ内でのレベルの差もモチベーションを下げる要因になる。→グループに色々なレベルの学生を入れる。

「評価」と「やりたいことをさせる」こととの間の差異。
話させる、間違えがあっても話させるというのと、成績をつけるための課題やテストとの間のバランス。

大学での語学教育の存在意義は？
大学で教えるというのは、語学学校で教えるのとは違いがあるべき。必要。
何を教えるべきか。
コミュニケーション活動だけでなく、文法、どのように言語が機能するのかなどを教える必要もある。
会話だけだと評価もしにくい。そのためにポートフォリオなどのツールもあるが、なかなか正確な評価は難しい。

面白いと感じる会話の授業と、難しくてしんどいという文法の授業の差。
満足度、必要性をあまりに意識しすぎると、本質的なところを見失いかねない。

【grupo C】
4. Metodología, Gramática, contenidos socioculturales
「文法を体系的に学ぶこと」vs「めやす的学び方」
・社会文化項目から始めると、体系的な文法知識の獲得が妨げられる
・アクティビティを考える際に文法から考え始めると、社会文化項目が導入しづらい。
・めやす：文化項目→機能→文法　　→文法まとめ・練習
・コンテキストから始める必要性
・日本人は文法→コンテキストの順番を好む傾向があるが、ここまでそれでうまくいかなかった。何か変える必要性。
・自律した学習者になるためには文法を体系的に（全体を）学ぶ必要性がある。
・自律した学習者（要定義付け）であれば、自ら自分に足りないことを補完できる。
・現在の小中学校での外国語教育の在り方
・文法を知っていることで話す恐怖心に勝てる vs.　話すことから始めれば話すことへの恐怖心はない

・専攻と第二外国語は分けて考える　　めやすは第二外国語向きに作成
・文法で始める場合：すべての用法を教える
社会文化・機能で始める場合：使う用法だけ説明・練習
・自律した学習者とは：「学んだことで何ができるか」「あることをするために何をすべきか」を知っている人　＝モチベーションを持った学び手

【grupo D】
【第二外国語の学生向けクラスの学習目的】
１．英語とスペイン語を並行して学習
２．伝わる、使える第一優先（相手に伝われば良い（例えば主語や動詞の列挙のみ、文法事項を排除））
３．異文化理解、文化的寛容、視野の拡大、自文化の相対化

【メソドロジーについて】
４．　文法は従来どおり体系的
５．　順序どおりにインプット
６．　網羅的に学習させる必要はなし、スパイラル（従来の教科書と併用？）

【gurpo E】
2 y 3: Motivación del estudiante y objetivos de la clase

¿Es importante la motivación?
Debemos considerar los intereses de los estudiantes pero no podemos basarnos solamente en eso. Tenemos que encontrar un punto de encuentro entre los intereses de los estudiantes y el objetivo de la asignatura.

¿Hasta qué punto tenemos que tratar de motivar a los estudiantes?
No desmotivar es más importante que motivar.

¿Cómo motivar a los estudiantes?
El factor más importante es el factor humano: la propia motivación del profesor.

Objetivos de la clase
No solo enseñar la lengua.
Es difícil evaluar la competencia intercultural, la adquisición de estrategias de aprendizaje, etc.

【grupo F】

★第二外国語教育としてのスペイン語教育の目的
①大学が目指すもの
　　それぞれの大学による
②めやすが目指すもの
P86（２．３.）「授業で学んだ方法論によって一生の間学び続ける学習者を育てること」
この方法論は学習者にとって、ひとつのきっかけであったほうがいい。一生学び続ける主体性は学習者に委ねるべきではないか。

③教師個人が目指すもの
・文法は単独で教えられるものではなく、コンテクストや文脈とともに教えられるべきである。その点においては「めやす」の理念に賛成である。
・②の方法論が多様性を学ぶことも含まれている。それなのに①の大学が目指すものは教師の教え方に多様性を認めないというズレが生じているのではないか。
　　やり方、たとえば導入の方法で自分なりの工夫ができるのでは？
　　教師のモチベーション、教師の言語観、自分の信念等を大切にするべきだろう。
　大学がめざすもの、どこまで具体的かは、学校による。教師の多様性、
その姿勢について学生へ伝える？

本企画についての参加者からのコメント

・いろいろな発想からの意見が聞けて、勉強になりました。とても新鮮でした。（初参加）

・CEFR を参照しての現行の教育の見直しは評価できると思う。今後、日本の外国語教育のありかたや実際の教育現場の事情をふまえた理想と現実のギャップをうめる作業が必要になると思う。

・日頃疑問に思っていたが直接誰かに質問することのない内容を正直に話し合うことができた。たくさんの新しい方と知りあえたのもよかった。とにかく楽しかったです。大変だとは思いますが、またこのような企画をたのしみにしております。

・グループでの discusión を通して、『めやす』の考え方がだいぶわかった気がします（去年よりも）。今までは、「自分は『めやす』を使ったような授業はしないかな…」と思っていましたが、今日、少し使う可能性を感じました。

・今日の GIDE と TADESKA の合同企画、大変有意義でした。グループ毎だったので話しやすいし、グループ構成も上手くして頂き、色々な方と話せることが出来、それがとても参考になりました。

・このような形でいつも思っていることを交換することでいろいろ振りかえることができて、非常に有益であった。答えのないテーマについてギロンすることで問題点などをうきぼりにすることができたと思っています。ときどきこんな機会を作ることは大切だと思った。（あまり具体的でないですね）

・専攻はスペイン語教授法ですが、逆にこうでなければならないという思い込みが自身にあったことに気付きました。自分が普段気が付けていない点を気付かせて頂けたのでとても多くを学べました。特に 20 分のアクティビティの中で、各 tema のエッセンスをとても上手く出されていると感じました。そして、教員一人一人の思いを大切に今後も努力したいと思います。

・色々なお話が伺えて、とても勉強になりました。ありがとうございました。特に Parte II のグループディスカッションで自分と違う環境で教えていらっしゃる先生方の貴重なご意見が伺えて、とても楽しかったです。文法を desmotivador にせずに、効果的に Actividad に組み込むためにいろいろヒントになるお話も聞けました。限られた授業時間にいろいろ盛り込むのは大変ですが、今日学んだことを来年度のクラスに生かしたいと思います。

（以上）